

ボルグワーナー、新ロゴを発表

イー・モビリティ事業主力化に向けてのシンボル

- *ボルグワーナーの歴史に新たな1ページを刻む、未来志向でダイナミックなロゴ*
- *チャージング・フォワード(Charging Forward)戦略の順調な進捗が決め手となり、新ロゴの発表を決定*
- *イー・プロダクト(eProduct)事業の売上高、2027年までに100億ドル以上を見込む*
- *クリーンでエネルギー効率の高い世界の実現というボルグワーナーのビジョンを強調*

革新的で持続可能なモビリティソリューションを自動車業界に提供するボルグワーナー(本社:アメリカ合衆国ミシガン州アーバンヒルズ、社長兼最高経営責任者:フレデリック・リサルド/Frederic B.Lissalde)は、2023年6月6日チャージング・フォワード(Charging Forward)戦略の推進によるイー・モビリティ(eMobility)事業の主力化へ向けての力強い進捗を表現した新ロゴを発表しました。新ロゴは、ボルグワーナーの変革を視覚的に表現しており、未来志向かつダイナミックで、ボルグワーナーの長く誇り高い歴史に新たな1ページを刻むものです。ロゴの変更は30年ぶり以上となります。

ボルグワーナーは2021年3月にチャージング・フォワード戦略を発表し、目標達成に向けて大きく前進しています。同社は、2025年までに売上高の25%以上をバッテリー電気自動車(EV)事業が占めるとの目標を掲げており、EVの主要構成部品の2025年における売上高目標は、当初の25億ドルを上回る30億ドルに達する見込みです。さらに、EVに特化したM&Aでは、バッテリーパック、電気モーター、パワーエレクトロニクスおよび直流急速充電の分野で5件の企業買収を行っており、計画を前倒しています。フィニア社(PHINIA)の分社化が本年第3四半期に完了する予定であることから、内燃機関係の製品ポートフォリオを最適化するという目標も達成する予定です。

ボルグワーナーの社長兼最高経営責任者のフレデリック・リサルドは、「今こそ、新しいロゴを発表する絶好の機会です。ボルグワーナーを従来の内燃機関技術のリーダーから、イー・モビリティを含むモビリティのリーダーへと変貌させるために当社のチームが成し遂げた大きな進歩を意味するシンボルとなります」と述べています。

新たな1ページを刻むにあたり、ボルグワーナーは本日、基幹製品の強みを活かし、イー・プロダクト（EV およびハイブリッド、eProduct）の売上高を 2025 年に 56 億ドル、2027 年に 100 億ドル以上にまで拡大する計画を発表しました。本年のイー・プロダクト事業の売上高は 23 億ドルから 26 億ドルを見込んでいます。

ボルグワーナーは新しいコーポレートロゴを開発するにあたり、ブランド戦略会社の Siegel+Gale と提携しました。

BORGWARNER

ボルグワーナーは、チャージング・フォワード（Charging Forward）戦略の推進によるイー・モビリティ（eMobility）事業の主力化へ向けての力強い進捗を表現した新ロゴを披露しました。新ロゴは、ボルグワーナーの変革を視覚的に表現しており、未来志向かつダイナミックで、ボルグワーナーの長く誇り高い歴史に新たな1ページを刻むものです。

ボルグワーナーについて

ボルグワーナーは、130 年以上にわたり、モビリティのイノベーションを成功に導く、変革的なグローバル製品リーダーであり続けています。すべての人にとってよりクリーンで健康的、かつ安全な未来を築くために、世界の e モビリティへの移行を加速させています。

URL: <https://www.borgwarner.com/home>

本プレスリリース（以下、本「リリース」）に記載された内容には、経営陣の現在の見通し、期待事項、試算、推定に基づく、1995 年米国私募証券訴訟改革法で想定された将来予測に関する記述が含まれている場合があります。「見込む」、「考える」、「継続する」、「可能性がある」、「目的とした」、「影響」、「試算する」、「評価する」、「期待する」、「予測する」、「目標」、「指針」、「取り組み」、「意図する」、「場合がある」、「見通し」、「計画する」、「潜在的」、「予見する」、「推定する」、「追求する」、「目指す」、「すべきである」、「目標とする」、「の場合」、「でしょう」、「かもしれない」などの文言、その変化形および同様の表現は、かかる将来予測に関する記述であることを意図しています。さらに、歴史的事実に関する記述を除く、本リリースに含まれる、または言及する形で盛り込まれた当社の財務状況、事業戦略、当該戦略を実施するための手段などに関して、将来起きる、または起きる場合があると当社が期待する、または見込むあらゆる記述は、将来予測に関する記述です。その例として、業務の変更、競争上の強み、目標、当社事業および業務の拡大と成長、計画、将来の成功に関する言及などがあります。当社の直近の Form 10-K 年次報告書（以下、「Form 10-K」）の第 7 項「重要な会計方針（Critical Accounting Policies）」で記述されたものをはじめとする会計上の試算は、本質的に将来予測です。すべての将来予測に関する記述は、歴史的な動向、現在の状況、期待される将来の進展、当社がそれらの状況下で適切と考えるその他の要因に関する当社の経験と知見を踏まえた当社による仮定および

分析に基づいています。将来予測に関する記述は業績を保証するものではなく、当社の実際の業績は、将来予測に関する記述において表現、推定、または示唆された事柄と著しく異なる場合があります。

これらの将来予測に関する記述は、本リリースの発行日における事柄を述べたものであり、過度に依存すべきではありません。将来予測に関する記述にはリスクおよび不確実性が伴いますが、それらの多くは予見困難かつ一般的に不可抗力によるものであり、将来予測に関する記述において表現、推定、または示唆された事柄とは著しく異なる実際の結果をもたらす可能性があります。そうしたリスクおよび不確実性の例として、当社または当社顧客に影響を及ぼす供給停止(受託製造会社(OEM)顧客および当社を含むそのサプライヤーに影響を与えている現在の半導体チップ不足等)、商品の入手可能性および価格、OEM顧客を含む既存および新規競合会社との競合、急速に変化するテクノロジー(主に電気自動車関連)およびそれに対する当社の革新能力に関連する困難、新型コロナウイルスに関連する事態が及ぼす影響の範囲および期間に関する不確実性(さらなる製造停止等)、電気自動車の需要予測および当社の電気自動車売上成長率の予測の困難、ロシアのウクライナ侵攻による世界経済の潜在的混乱、買収対象を特定し許容できる条件で買収を完了する能力、近頃のAKASOL AG社、Sanrollの乗用車用eMotor事業、Rhombus Energy Solutionsおよび2020年のデルファイ・テクノロジー社の買収を含む買収から期待される利益の適時な実現の不実施、売却に適切な燃焼系ポートフォリオ事業を特定し、計画された売却を受け入れ可能な条件で完了させる能力、取得した事業の迅速かつ効果的な統合の不実施、取得した事業に関連する未確認または推測不可能な債務の可能性、自動車およびトラック製造(いずれも景気に大きく左右され、停止の可能性がある)への当社の依存性、大手OEM顧客への当社の依存性、金利の変動および外貨の為替レートの変動、情報システムへの当社の依存性、世界経済環境の不確実性および地域経済における景気後退の可能性、さまざまな損害賠償に関する訴訟など既存または将来の法的手続きの結果、当社が事業を展開している国における税金や関税などの法規制の将来的な変更、将来の買収または処分の可能性による影響、直近のForm 10-Kおよび/またはForm 10-Qの第1A項「リスク要因(Risk Factors)」など証券取引委員会に提出する報告書に記載したその他のリスクが挙げられます。当社は、期待事項の変更または記述の根拠となる出来事、条件、状況、仮定の変更を反映するために、本発表文に含まれる将来予測に関する記述のいずれかを更新する、または更新もしくは改訂を公表する義務を負いません。

<報道に関するお問い合わせ>

ボルグワーナー広報事務局 中井、小野田

TEL: 070-4303-7215(中井)、090-7909-2732(小野田)

EMAIL: borgwarner-pr@kyodo-pr.co.jp